

平成 26 年 1 月 6 日

各 位

大和証券グループ本社

2014 年 日比野社長 新春ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年、2013 年は、“アベノミクス”が、日本経済、特に金融市場の風景を文字通り一変させた 1 年でした。デフレ脱却を最優先の政策課題に掲げる安倍政権のもと、4 月には黒田総裁率いる日銀の異次元金融緩和などを受け、長く続いた円高・株安も歴史的なトレンド転換を果たしました。一昨年 11 月の衆議院解散宣言から昨年 5 月までの半年間の株価上昇率は、実に 80% を超え、まさに歴史に残る上昇相場となりました。夏にかけて多少の調整局面はありましたが、自民党の参院選圧勝・国会のねじれ解消、東京オリンピック・パラリンピック招致の決定、消費税の決着、米国経済と株式市場の力強い動きなど、多くの好材料を受け、年末にかけては再び高値圏での推移となりました。結果として年間の株価上昇率は 50% を超え、徐々に日本の株式市場が、世界の株式市場のベスト・パフォーマーとして、世界の注目を浴びた 1 年でした。

大和証券グループにとっての 2013 年は、「再生＝ターンアラウンド」のプロセスを順調に仕上げた上で、4 月以降は「成長」をテーマとして取り組んだ 1 年でした。2013 年度上半期の経常利益は 1,081 億円、純利益で 928 億円と、上半期としては過去最高の決算となり、まさに、中計 2 年目の「成長」フェーズに相応しい実績を残すことができました。また、コスト削減に加え、安定収益拡大も進捗したことから、当社グループが目指す、「強靱な経営基盤の確立」という経営目標に向かって、大きく前進した年でした。

本年、2014 年は、中期経営計画における「成長」フェーズを更に進め、次の「拡大」ステージへと移行していく年になります。その「成長」及び「拡大」は、リテール部門を中核に据え、国内外の全部門の総力を結集して、「貯蓄から投資へ」の時代をリードする中で実現していきます。昨年の「貯蓄から投資へ」のマネーシフトは、投資信託の残高拡大などにその萌芽は見出せるものの、大きなうねりには至らず、膨大なポテンシャルは依然膨大なまま、2014 年に持ち越されています。そのような中、本年も日本の株式市場には、引き続き強い追い風が吹くことが想定されます。2014 年度の日本企業の利益水準は、円安とそれに伴う国際競争力の向上、世界景気回復を背景に、過去最高を更新する見通しです。120 兆円を超える資金を運用する GPIF の基本ポートフォリオも、株式などのリスク資産を増やす方向に動き出す見込みです。また、いよいよスタートした NISA は、幅広い個人投資家層の証券市場への参加の呼び水となることが期待されます。アベノミクス 2 年目の本年は、政権が最優先で取り組む「デフレ脱却」に向けた、確かな手応えが感じられる年になると考えています。したがって、個人投資家も機関投資家も、資産運用の軸足をいよいよ「デフレ対応」から「インフレ対応」に移し、徐々に国内投資家がその存在感を取り戻す年にもなると予想しています。日本経済、そして、我が国証券市場の歴史的転換点となる 2014 年、当社グループは、株式市場や株主からの期待に応えるべく、「貯蓄から投資への時代」をリードする」ことをグループの大方針として取り組み、更なる成長を遂げる年にしたいと思います。

大和証券グループは、今後も商品・サービスを今迄以上に充実させ、お客様のご期待に沿えるよう尽力してまいります。

本年も大和証券グループをどうぞよろしく願い申し上げます。

以 上